

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	汐中義樹	学校名	埼玉県立熊谷特別支援学校
担当教科等	自立活動	対象学年（人数）	高等部ⅠⅡ類（8名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年12月3,10日（2時間）		

【実践概要】

1. 実践する領域：自立活動	
2. 題材名：産廃×幸せな生き方×SDGs	
3. 授業テーマ（タイトル）と題材の目標 授業テーマ： 『シタラ興産』（深谷氏の産廃中間処分業者）で働く外国人従業員の幸せな状態（well-being）についての考察から、自分の幸せな生き方を設計する 目標： ①自らの幸せ体験を友達と共有し、幸せ（well-being）について定義できる ②『シタラ興産』で働く外国人従業員の生き方や経営者の思いから普遍的な幸せに気づくことができる ③幸せな生き方に向け、自らのアクションプランを描くことができる	
4. 題材の評価	・心理的な安定 主体的に生活を送る良さに気づくことができる
	・人間関係の形成 グループ間の交流を深め、広い視野で人との関わりがもてる
	・コミュニケーション 内省したことを表現したり、友達の意見を受け止めたりできる
5. 題材設定の理由・題材の意義 (生徒観、教材観、指導観)	【題材設定の理由】 生徒たちに、よりよい生き方や、幸せに生きるための気持ちの作り方について考えて欲しいという思いから、本題材を設定した。具体的に以下の2点である。 ①卒業後、就労等で社会に出る高等部の生徒が対象である。生徒たちが新たな場所で活動していくには、社会に適應できる態度や能力の他、「幸せの状態（well-being）」に自分をもっていくことが大切だと考える。 新たな環境に対する不安は生徒に限らず我々にもある感情だが、不安を解消し乗り越える中で生きる力が培われると考える。“物事の向き合い方や捉え方”を学ぶことは、不安を生きる力に変えるために必要なスキルであると考え。 ②事前に近隣の産業廃棄物中間処分工場（以下『シタラ興産』）で働く外国人従業員へのインタビューを行った。そのインタビューをもとに、外国人従業員の「幸せ」について考察する。身体的なハンディキャップを抱える生徒たちが、言葉や文化の違いといったハンディキャップを抱えながら働く外国人従業員の幸せについて考えることで、幸せを客観視できると考えた。また、幸せに障害の有無は関係なく、どう生きるかが大切であることを知る機会になると考える。 以上により、自分、友達、社会人、外国人と関わるコミュニティを広げ、多くの人の生き方に触れながら自分なりの人生を前向きに描けるよう指導したい。 【題材の意義】 2時間の授業計画である。意義と授業形態は以下の通りである。 ・「幸せ」といった目に見えない状態はどういった気持ちの変化や環境によってもたら

されるのか。自分の幸せな状態を振り返る、友達の幸せな状態を聞く。そして、国際データや研究をもとに、普遍的な幸せな状態について知る。幸せの四因子である「主体性、自主性、楽観性、利他性」を紹介し、「幸せ」について定義する。

・授業者が事前に行った『シタラ興産』でのインタビューを用いる。地域や外国人といった普段あまり関わることのない人たちの生活や生きがいなどを知る。今後の幸せについて深く考え、行動が変容する機とする。

【生徒観】

高等部1～3年生の8人で構成されたグループである。脳疾患などによる上下肢や体幹の機能障害を抱える生徒、車いすや短下肢装具の着用などで生活上に制限を伴う生徒たちである。

高等部では、日々の学校生活で教科学習や生活において社会で活躍するための実践的なスキルを培っている。

学校コミュニティでの活動は、社会の多様性に気づくための外部との交流は多くない。よって今回の授業では、普段の学習とは違った角度で社会を見ることを提案している。さらに一歩踏み込んだ「働く人の幸せ」まで思考を膨らませる。これまで積み重ねた学習の意義や、今後の学習の価値が高まり、より意欲的に学校生活を営む気持ちが醸成されると考える。

【指導観】

生徒は、自分の障害を理解し、受け止め、将来に向かって自分なりに考えているように感じる。卒業後の新しい環境で生活したり働いたりする中で、自分の将来を明るくする軸をもって生きてもらいたいと考える。

幸せな人生を歩むには、幸せになる方法を知る必要がある。幸せの輪郭を描き、幸せとそうでないものとの境界線を考える。その中で、これまで「幸せじゃなかった」と感じている出来事が、捉え方次第で幸せの境界線を越えられる（幸せだと思える）可能性を模索していく。さらに外国人の生き方働き方を知りながら、普遍的な幸せを考え、「主体性、楽観性、自己性、利他性」を軸に、今後のアクションプランに落とし込んでいく。

6. 指導計画（全2時間）

時	指導内容	学習のねらい	学習活動	資料など
1	幸せの境界線を考える	幸せの境界線について考え、幸せを定義する	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸せな出来ごと」ベスト3を考える ・「幸せな出来ごと」をみんなで共有する ・似たものをグループ化する ・グループに名前を付けて抽象化する ・どんな場面や気持ちの時に幸せを感じられるのか考える ・幸せじゃない出来事を1人1つ挙げる ・幸せグループとそうじゃない出来事との間に境界線（しあわせライン）を引く ・「幸せの境界線」を考察し、幸せに生きるためにどう行動すればいいかを考える ・「幸せの四因子」を提示し、幸せについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界幸福度ランキング（国連データ） ・SDGs達成度ランキング（国連データ）

			定義する <ul style="list-style-type: none"> ・地位財、非地位財によって幸福度の時間軸が違うことも知る 	
2 本 時	外国人従業員の幸せについて学ぶ	言葉や文化を乗り越え働く外国人の方々の幸せについて考え、自分の将来の幸せを設計する	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物について資料をもとに知る ・産廃処理現場の写真を見て、分かったこと、気づいたこと、思ったことを発表する ・『シタラ興産』について知る ・外国人従業員に行ったインタビューから、働きがいや幸せについて考える ・社長の社員を思う気持ち、社員の会社を思う気持ち、会社の変化について考察を深める ・幸せに四因子と照らし合わせ、幸せについての理解を深める ・将来の自分の幸せを設計する 	<ul style="list-style-type: none"> ・シタラ興産への取材をもとに作成したパワポ資料（添付データ参照） ・ワークシート（添付資料参照）

7. 本時の展開（2時間目）			
本時のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・『シタラ興産』で働く外国人従業員の「幸せ」について考察する ・将来に向けた自らの「幸せ」を設計する 			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返る ・生活ゴミに着目し、学習の視点を学校外に向ける ・産業廃棄物について知る ・一般廃棄物と産業廃棄物の違い、産業廃棄物の処理方法について学ぶ ・自動車の生産で排出されるゴミから、産業廃棄物へのイメージを高める ・産業廃棄物が積まれた写真を提示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由意見とし、発言を板書して共有 ・環境省の資料から、廃棄物の年間排出量、産廃の処分方法（最終処分、減量、再利用）を示す ・説明の簡素化の為、車のプラモデルを例に自動車産業の廃棄物を考える 	パワーポイント資料（添付資料参照）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 産業廃棄物の写真を見て、分かったこと・気づいたこと・思ったことを発表しよう </div>			
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見た考えや意見を共有する ・『シタラ興産』を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直な意見を発表していいと声掛けする ・前出の写真で抱いた産 	

	<p>(本校すぐ近くにあり、日本で初めて AI 搭載の自動選別機を設けた工場をもつこと、社長の設楽竜也氏の会社や従業員への想いなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人従業員の方々がいることを知らせる (工場で働く姿や、外国人従業員だけのミーティングの様子など) 	<p>廃のイメージと、そこで働く人たちの仕事に対する尊さを比較させる</p>	
<p>『シタラ興産』で働く外国人従業員の幸せとはなにか？</p>			
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> なぜ日本で、なぜ産廃で、なぜ『シタラ興産』で、という視点から、外国人従業員が働いている理由について考える 外国人従業員の方へのインタビュー内容を提示し、働きがいや幸せについて考える 組織文化の変化について考える 前時で学習した、幸せの四因子を再掲し、働きがいや幸せ感について考察を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自国とは言葉も生活様式も人間関係も違うことに気づかせながら考える 外国人従業員の「ここで働きたい」という想いと、社長さんや他の社員さんの「働いてくれてありがとう」という気持ちが繋がっていることに気づかせる 幸せとは短期的な利益ではなことに気づかせる 	
	<p>これからの自分の「幸せ」について計画しよう</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに取り組む <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①タイムライン ②スリー・グッド・シングス</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> まとめの講話をする 小さな成功に目を向け、自分らしさを追求し、仲間と理解し合うことの大切を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み例を示しながら自由に想いをかけるよう声かけする 生徒の行動変容が促せるよう、講話を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート (添付資料)
<p>評価規準に基づく本時の評価方法 以下の観点に基づき評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理的な安定：主体的に生活を送る良さに気づくことができる 人間関係の形成：グループ間の交流を深め、広い視野で人との関わりがもてる コミュニケーション：内省したことを表現したり、友達の意見を受け止めたりできる 			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>【学習方法】 自分の考えを述べたり、友達の意見を聞いたり、社会で働く人たちの様子を考察したりしながら「幸せ」について考えるオープンエンド型授業。</p> <p>【外部との連携】</p>			

『シタラ興産』にて、工場見学、社長さんや外国人従業員へのインタビューなどをさせてもらい、働く意義や外国人を受け入れるまでの経緯、環境整備、組織文化の変化について伺った。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

地元企業との関係を構築し、本授業実践の理解や協力を得ることや、実践内容を自校HPとお便りによって情報発信することで、学校内外に実践内容を広めた。

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>『テーマの絞り込み』と『授業の展開方法』である。</p> <p>1. 『テーマに絞り込み』について</p> <p>本プログラムの目的である「国際理解教育」を踏まえる前提はあるものの、授業の対象グループの実態や学年に合わせて「就労」「卒業後の進路」「余暇の過ごし方」など、より実生活に即したテーマを設けようと考えた。</p> <p>題材として『シタラ興産』を扱っていくことは決めていたものの、働くことか、進路全般か、長期的な視点から人生に関することかを決めるのには苦労を要した。結果、幸せな生き方という、他のテーマを包含するものにできた。</p> <p>2. 『授業の展開方法』について</p> <p>苦労したことでもあり、授業を組み立てる楽しさでもあった。点と点が線でつながるがごとく、2時間の授業の中でどうやってゴールまでの道筋を作っていくかは、教員としての腕の見せ所でもある。クリエイティブな作業である一方、生みの苦しみを伴うものでもあった。</p> <p>50分×2時間に収めるにはテーマが大きすぎるため、随分と内容を削ったが、結果としては、生徒のテーマ理解が促進できたと考える。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>『授業内容の高度化』と『フォローアップの充実』を挙げる。</p> <p>1. 『授業内容の高度化』について</p> <p>自分自身、小学校と特別支援学校小学部での担任経験しかないため、中学部・高等部での授業はいまだに指導内容の充実という点で課題が多い。今回も、高等部の生徒に授業内容がマッチさせられていない部分も多かった。生徒との関係を深め、実態に即した授業内容の高度化を図りたい。</p> <p>2. 『フォローアップの充実』について</p> <p>授業では1年後、3年後、5年後の目標について考えたり、1日のいいことを思い返して記録しようという「スリー・グッド・シングス」に取り組んだりした。well-beingの追求は長期にわたるものである。授業をして終わりではなく、今後生徒たちの人生の目標に対してフォローを続けたい。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>成果が出た点は2点である。</p> <p>『well-beingについての理解が得られた』と『地域で活躍する人たちを知ることができた』である。</p> <p>1. 『well-beingについての理解が得られた』について</p> <p>嬉しい思い出やいやな思い出について振り返ることで、生徒がどういった心の状態で過ごせばよりよい生活が送れるかを問うた。そこから「well-being」につ</p>

いて説明したことで、「幸せな状態でいた方が、人生は楽しいはず」という思考に上手く繋がったと考える。今後の物事の捉え方について学ぶきっかけが作れたのは、大きな成果と考えられる。

2. 『地域で活躍する人たちを知ることができた』について

生徒は学校から自宅までスクールバスで登校しており、学校周辺で生活したり働いたりしている人々と関わる機会はあまりない。地域に開かれた学校となるために、学校から主体的に地域との関係作りをし、関わる機会を創出する必要がある。メディアでたびたび取り上げられる地元の企業、『シタラ興産』に焦点を当てて授業を展開した。生活において必ず出るゴミは生徒も容易くイメージできる。身近なゴミが自分たちの知らないところでどういった処理のされ方をしているのか。既知と未知のギャップの中で働く地元企業で活躍する人たちのことを、経営者、幹部、女性従業員、外国人従業員など多面的に捉えながら知ることができた。日々出るゴミと、そのために懸命に働く人たちの姿を思うきっかけが作れたのは大きな成果である。

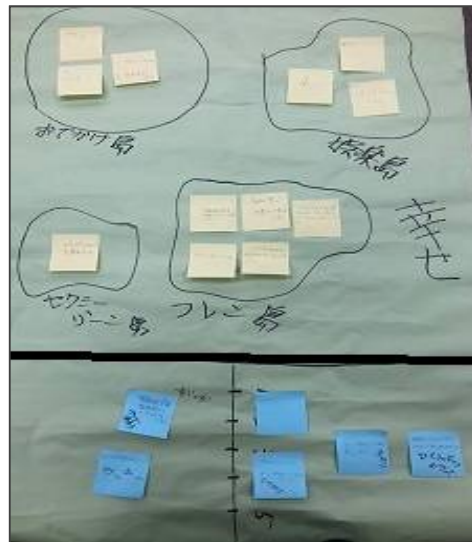
14. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、
感想文、作文、ノートなど)

「シタラ興産の紹介」では、以下の画像等を用い考察を深めた。



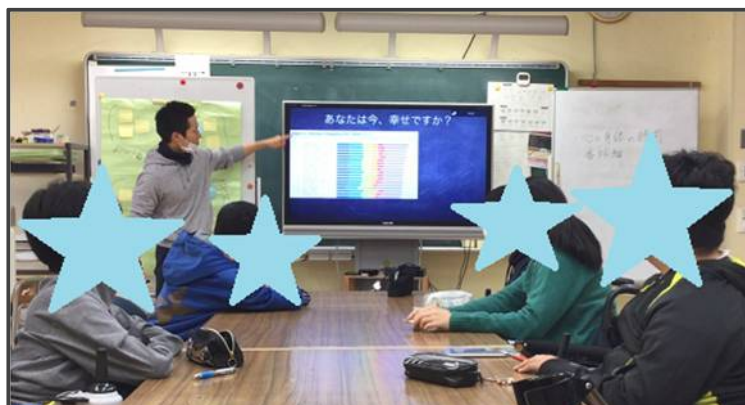


「幸せの境界線」では、幸せな思い出と幸せじゃない思い出を共有し、何によって幸せかそうでないかは決まっていくのかを考えた。



授業で扱った「タイムライン」は、1年後、3年後、5年後の自分の状況とその時の気持ちを想像しながら書いていた。皆、それぞれの明るい未来を想像し、前向きに生活する様子が描けていた。

「スリー・グッド・シングス」は9日間に渡る宿題としたが、ほぼ全員が取り組んでいた。「良かったこと」を主体的に見つけている様子が窺えた。1日ごとコメントを付して返した。（以下、生徒名と授業者のコメント部を修正して掲載）



タイムライン

名前 ([redacted])

	目標	気持ち
1年後	仕事をうまくいける はなばな合格	良かったはなばなの合格 2年分合格と30分
3年後	検校 1級合格して 外国大物を買っている	外国に行くと友達と おもしろい
5年後	独立した方法を作 る	みんなが喜ぶ方法を 作る
88歳の自分	ホランシア(女)	この世にいる人を助けて たい

タイムライン

名前 ([redacted])

	目標	気持ち
1年後	新しい場所に行く準備 (就労活動)	新しい場所での新生活が楽しめ たい
3年後	会社が楽しくてはまっている。	① 人の笑顔が 見えるので仕事は楽しく か か
5年後	仕事で思い通りの働きか になる。	② 人の力を必要とされる 人が いる
88歳の自分	楽しい老後を送 る	人生は何で楽しんだら いい

スリー・グッド・シングス

その日のいいことを3つ書いていこう

① 12月10日 ・テスト勉強ができた ・夕食後の作業が おもしろい ・ロールを元気づけた	② 12月11日 ・ALTの授業がおもしろ い ・体育の授業が おもしろい ・美術の授業が おもしろい	③ 12月14日 ・LHRの大会が おもしろい ・家庭会が大変楽し かった ・音楽の授業が おもしろい
④ 12月15日 ・家庭会が楽しい ・テストができておもしろ い ・クラブを元気づけた	⑤ 12月16日 ・家庭科の授業が おもしろい ・数学の授業が おもしろい ・家庭会が おもしろい	⑥ 12月17日 ・家庭科の授業が おもしろい ・クラブが おもしろい ・家庭会が おもしろい

① 12月10日 ・テスト終わった。 ・夕食後にロールケーキ を食べた。 ・ゆっくりお風呂に入った。	② 12月11日 ・リサ先生とうまくやりとり できた。 ・今日の給食良かった。 ・美術の作品が完成!!	③ 12月12日 ・お風呂に入った。 ・ソムソムをした。 ・生姜焼きを食べた。
④ 12月13日 ・お風呂に入った。 ・ソムソムをした。 ・者込ラーメンを食べた。	⑤ 12月14日 ・数学頑張った。 ・ゆめのおけ Medal をゲット した。 ・お風呂に入った。	⑥ 12月15日 ・パソコンのバグが直った。 ・習字で字を褒められた。 ・保健のテスト頑張った。
⑦ 12月16日 ・現代社会のテスト ・ソフトテニスをした。 ・お風呂に入った。	⑧ 12月17日 ・地学の論文が おもしろい ・産業のカードが おもしろい ・ソムソムをした。	⑨ 12月18日 ・ロールでアシストできた。 ・小情報の発表が おもしろい。 ・お風呂に入った。

15. 授業者による
自由記述

①準備 ②実践 ③改善
の3つの視点で記述する

①準備

授業作りで難しさを感じたのは、授業者が対象グループの担任ではないため、設定した目標が生徒の実態と照らし合わせて適切かどうかの判断がしづらいことであった。そのため担任の先生に話を聞き、普段の授業の様子やクラスの雰囲気などをもとに0ベースで授業を組み立てていった。

SDGsや国際理解教育という本研修テーマを抽象化すると、「利他的な考え方」や「多様性の認め合う」といった言葉が浮かび上がった。さらに、生徒の実態や課題を考える中で「well-being」というテーマに至った。2時間の授業計画のうち、1時間目の授業を実践し、振り返りを踏まえて本時の精度を高めようと考えた。柔軟に授業を組み立てなおすという計画により、本時の授業の質が向上した。

②実践

1時間授業をしてみて気づいたことは、生徒たちは担任の先生方と授業の積み重ねが豊富であり、主体的に学ぼうとする姿勢があるということだった。

本授業に対してもとても意欲的に取り組めた。生徒にとっては馴染みのない言葉が出てきたり、「幸せ」という形のないものを考えたりすることは、教科学習と違う難しさがあったと思うが、興味深そうに授業を受けていた。

『シタラ興産』の協力を得ながら構成した本時の展開部では、特に興味深そうに発問に取り組み、授業者としても素直に嬉しく、有意義な時間であった。

シタラ興産・well-being・SDGsという一見すると関連性の低そうなものが、意義深く融合していき、素晴らしい教材になりえることが知れたのは、大きな成果である。

③改善

本来の目的は生徒たちの卒業後の生活の充実である。そのためには今後も関係を維持しながら見守っていくことが大切である。生徒それぞれの人生の価値観を高められるような支援、授業を考えていきたい。

※参考文献

「旗を立てずに死ねるか！」設楽竜也 / 「幸福の意外な正体」ダニエル・ネトル

「自己肯定感ノート」中島輝 / 「幸せのメカニズム」前野隆司

「嫌われる勇気 ～自己啓発の源流 アドラーの教え～」岸見一郎ほか

※添付資料

タイムライン

名前 ()

	目標	気持ち
1年後		
3年後		
5年後		
88歳の自分		

スリー・グッド・シングス

その日のいいことを3つ書いていこう

① 月 日 . . .	② 月 日 . . .	③ 月 日 . . .
④ 月 日 . . .	⑤ 月 日 . . .	⑥ 月 日 . . .
⑦ 月 日 . . .	⑧ 月 日 . . .	⑨ 月 日 . . .